

令和 5 年度 篠井小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

感性豊かで、ともに生きることを喜び、よりよい自己と社会のために考え、行動する児童の育成
 健康で明るい子ども（きたえる） よく考え 自ら学習する子ども（かんがえる）
 すなおで親切な子ども（たすけあう） 根気よく働く子ども（がんばる）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

次代を担う児童一人一人が、多様な人々と共生しながら激しい社会の変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓いていけるよう、全職員の使命感と協働の精神を基盤としながら、学校、保護者、地域が知恵と熱意を結集し、一体となって必要な資質・能力を育む。また、地域と地域繁栄の象徴である篠井小学校の歴史と伝統を重んじながら、学校に携わるすべての人の喜びを生む学校を目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 教育目標達成に向けた特色ある教育課程の編成と更新

教育目標の達成に向けて、最新の教育研究の動向を見据え、児童の心身の発達の段階や特性及び学校や地域の実態を十分考慮しながら、地域の教育力を生かした創意工夫ある教育課程を編成し、特色ある教育活動を推進する。また、教育課程を常に評価し、よりよいものへと更新していく。

(2) 学校職員の資質の向上

学校職員が崇高な使命を自覚し、人間性と専門性、指導力の一層の向上に努めるよう環境を整え、研鑽を促す。その際、超過勤務の縮減など業務の改善を推進する。（学校職員の資質の向上）

(3) 人権尊重の精神に貫かれた学校経営の実現

(4) 職員一人一人の創意が生きる民主的な学校運営

学校経営のビジョンを明確に示し、全職員と共有し、教育活動や学校運営などの方策においてボトムアップ型の提案を増やす。

(5) 「地域とともにある学校」づくり

○保護者・地域・学校園内の学校及び各種団体、関係諸機関など、「チーム篠井小」との連携を密にし、「地域とともにある学校」づくりに努める。その際、保護者や地域に対して積極的に情報を共有し、信頼される学校を目指す。

[晃陽地域学校園教育ビジョン]

未来を見据え、地域と連携し、子どもが生き生きと学ぶ晃陽地域学校園
 －児童生徒の学習習慣の定着と学力向上を目指して－

4 教育課程編成の方針

- (1) 関係法令、学習指導要領に基づき、栃木県教育振興基本計画、第2次宇都宮市学校教育推進計画等を踏まえ、各教科等の目標を達成、ひいては初等教育の目標を達成できるよう、必要な教育内容を組織的に配列する。また、今日的な社会の課題を解決するために必要な資質・能力を育成できるよう各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、教科等横断的な視点で教育の内容を組織的に配列する。
- (2) 教育目標である「感性豊かで、ともに生きることを喜び、よりよい自己と社会のために考え、行動する児童の育成」を実現するため、全人格的な陶冶をめざす教育課程を編成する。
- (3) 基礎的・基本的な知識及び技能及びこれらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、学びの原動力となる主体的に学習に取り組む態度をバランスよく養い、児童の生きる力、生涯にわたって学び続ける力を育む。
- (4) 児童の心身の発達の段階及び地域や学校の実態を考慮しながら、体験を通して学ぶことを重視するとともに、保護者や地域、専門家・関係諸機関等との連携・協働により社会に開かれた教育課程を編成する。

- (5) 小中一貫教育カリキュラムに基づき、保護者や晃陽地域学校園内の各学校と連携を図りながら、義務教育9年間を見通した系統的な教育課程を編成する。
- (6) 前年度の教育課程について分析・評価し、校内各種計画と関連付けながら教育課程を改善することに組織的に取り組み、カリキュラム・マネジメントの確立、教育課程の一層の質的向上に努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
- ・児童の安心・安全に最大限留意し、信頼される学校を目指す。特に、いじめと不登校対策、交通安全に重点を置く。
 - ・児童一人一人の資質・能力を最大限伸ばせるよう、しくみを整え、教育課程を工夫し、職員の資質向上を図る。
 - ・創立150周年を前に、地域の思いや願いを受け止め、「地域とともにある学校」を目指す。
- (2) 学習指導
- 誰もが「できた!」「分かった!」「深まった!」を実感できる授業の実践（継続）
- ・本校において課題のある単元の指導計画及び評価計画の見直し
- (3) 児童生徒指導
- ・自己のよさに気付き、他のよさを認め、尊重する態度の涵養
 - ・夢や目標を抱き、粘り強く（協力しながら）取り組む態度の涵養
 - ・あいさつと清掃への取組の一層の向上
- (4) 健康（体力・保健・食・安全）
- ・自己の健康、安全、体力に関心を持ち、よりよい生活を実践する児童の育成
～体育及び特別活動の年間指導計画の見直しと実践～

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① ペア学習やグループ学習を意識的に取り入れていくことにより、児童が他者と協力したり、情報を共有したりしながら学習に取り組めるようにする。 ② 児童の興味・関心のある教材を用いたり、課題の設定の仕方や発問を工夫したりし、主体的に学習に取り組めるようにする。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答：93.8% 教職員の肯定的回答：100% ○学校課題を念頭に、授業においてペア学習やグループ学習を取り入れたり、タブレットや図書資料から情報を収集できるような支援を行ったりした。 ○教材研究を行い、児童の興味関心をもてるような課題設定のしかたや教材教具の工夫を心がけた。 【次年度の方針】 ○一人一人の意欲や達成感を大切にしながら学習課題や形態についての工夫を行い、主体的に学習に取り組むことのできる環境づくりを行った上で、分かる授業や個に応じた指導の充実を図る。

1- (2) 豊かな心を 育む教育の 推進	A 2 児童は、思いやりの心 をもっている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定 的回答 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 生活の中で、時と場に応じた適切 な言葉使いの指導を推進する。(ふ わふわ言葉の推奨) ② 人権教育年間指導計画に基づき、 全教育活動を通して人権教育を計 画的に実施する。 ③ 児童会活動や縦割り班による異 学年交流を通して、相手の立場を考 えて思いやる心を育む。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答：97.5% 保護者の肯定的回答：97.7% ○人権集会や交流活動を通して、相手の 立場を考えて生活することの大切さを 指導してきた。また、ふれあい班活動を 推進することで、互いに思いやる心の醸 成を図ることができた。 【次年度の方針】 ○引き続き、様々な活動を通して、相手 の立場を考えて生活することの大切さ を指導する。また、日頃から適切な言葉 遣いについて考える場面を設ける。
	A 3 児童は、目標に向かっ てあきらめずに、粘り強 く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定 的回答 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 宮・未来キャリア教育年間指導計 画に基づき、児童が自らのよさを自 覚して夢や目標の実現に向けて取 り組もうとする意欲や、望ましい勤 労観や職業観を、全教育活動を通し て意図的・計画的に育む。 ② 学校生活において児童の主体的 な活動を推進し、目標等を設定させ るとともに、振り返りを充実させ、 児童を称賛することで、意欲の持続 や高揚を図る。	A 【達成状況】 保護者の肯定的回答：81.8% ○学習や学校行事の際に、目標をもって 粘り強く取り組むことの重要性に重点 を置いた指導を継続して行った。 【次年度の方針】 ○児童の主体的な活動を推進するとと もに、学校行事等においてキャリアパス ポートを活用し、目標を設定し、振り返 りを充実させる活動に努める。また、児 童の実態に合わせた目標を設定するこ とで、夢や目標の実現に向けて取り組も うとする意欲を高める。 ○ブロック間の交流や異学年交流など の活動で、互いの良さを発見し褒め合う 場面を設けることで学校生活への意欲 の持続や意識の高揚を図る。
1- (3) 健康で安全 な生活を実 現する力を 育む教育の 推進	A 4 児童は、健康や安全に 気を付けて生活してい る。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定 的回答 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 警察署や駐在所、消防署の方と連 携した防犯教室、避難訓練を実施 し、防犯・防災意識を高め、適切な 意思決定と行動選択ができるよう にする。また、大規模自然災害時の 引き渡し訓練等、保護者との連携体 制の強化に努める。 ② 食育だより、保健だよりを毎月 1 回発行し、栄養面を含め食育や健康 に対する家庭の意識の高揚を図る。 ③ 健康的な生活習慣の確立に向け、 家庭科や保健の授業で、栄養士や養 護教諭と連携し、授業を行う。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答：92.6% 保護者の肯定的回答：84.1% ○熱中症予防のための対策や廊下の歩 行の仕方など、個々が意識すべきこと の啓蒙や、不審者対応を想定した避難訓 練の実施などにより、児童の安全な生活 や防犯・防災意識を高めることができた。 ○食育だより、保健だよりを通して健康 で安心な生活について情報を発信する ことで、食育や健康に対する保護者の意 識の向上に努めた。 【次年度の方針】 ○家庭科や保健の授業で、栄養士や養 護教諭を活用した授業を行うなど、職員 が連携しながら全校体制で取り組んで いくとともに、食育だよりや保健だより 等を通して保護者へ啓発を行う。

1-(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童の活躍の場を設け、児童同士が認め合えるようにするとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ③ キャリアパスポートを活用し、自分自身が様々な活動を通して成長していることを実感できるようにする。	【達成状況】 児童の肯定的回答：95.1% ○各学年の発達段階に応じた係活動や委員会活動、学校行事での役割を通し、児童一人一人が活躍する機会を設けることができた。 ○キャリアパスポート等を活用することで、活動を振り返り、次の活動への意欲を高めることができた。 【次年度の方針】 ○引き続き、児童の自己肯定感を高め、自信をもって活動に取り組むことができるよう、個々の実態に応じた活躍の場や振り返りの機会を設ける。
2-(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 外国語活動(英語活動)を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ② 外国語活動(英語活動)に関する校内研修や授業を相互に見合う機会を充実して指導力の向上を図る。 ③ 学習内容を生かせるような体験的な集会活動や行事などを取り入れる。	【達成状況】 児童の肯定的回答：88.9% 教職員の肯定的回答：100% ○英語での言い方を示した掲示物を校内に各所に配置し、日頃から英語に親しむ環境づくりに努めた。 ○ALT と担任が連携して外国語活動(外国語科)を実施し、わかる授業を実践した。 【次年度の方針】 ○校内研修を充実させるなど、指導力の向上を図るとともに、イングリッシュ集会を実施するなどして、児童がコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
	A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上 ⇒保護者の肯定的回答 70%以上	① 現職教育に『宇都宮学』に関する研修を位置づけ、教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深めるとともに、総合的な学習の時間における『宇都宮学』の内容の充実を図る。 ② 各種たよりやHP等を通して150周年記念式典やかさまつ祭の取組を積極的に保護者や地域に発信し、地域や宇都宮の良さに対する理解を深めさせる。	【達成状況】 教職員の肯定的回答：92.9% 保護者の肯定的回答：59.0% ○様々な学年での校外学習の実施や3年生の社会科や総合的な学習の時間において、篠井地区や宇都宮のよさを知ることができた。教職員の肯定回答も92.9%と3.4%上昇した。 ○保護者の肯定回答は59.0%と低くなっている。学校での児童の学習の様子が伝わっていないことが考えられる。 【次年度の方針】 ○各種たよりやHP等を通して取組内容を積極的に保護者に発信していくとともに、総合的な学習の時間における『宇都宮学』の内容の充実や総合的年計を見直し、篠井地区について学ぶ機会を設ける。

2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定 的回答 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 児童が端末や情報通信ネットワ ークなどの情報手段に親しみ、適切 に活用する能力を育成できるよう、 授業において積極的に I C T 機器 を活用する。 ② 各学年の授業内容との関連に配 慮した教育図書の整備充実等、学校 図書館の環境整備に努めるととも に授業において学校図書館司書の 積極的な活用を図る。 ③ 読書の時間や読み聞かせの時間、 図書だよりの発行などを通して児 童の読書意欲を喚起する。	【達成状況】 教職員の肯定的回答：100% ○1人1台端末に慣れ親しみ、授業にお いて積極的に I C T 機器を活用するこ とができた。また、学校図書館司書と連 携し、図書室を活用することができた。 【次年度の方針】 ○校内研修を充実させ、ICT教育におい て、指導力の向上を図るとともに、担任 同士が情報交換する時間を確保する。 ○引き続き、学校図書館司書や図書委員 会を中心に、読書を推進していく。
2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な社 会」について、関心をも っている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定 的回答 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 総合的な学習の時間における環 境教育やみやエコスクール等を通 して、環境問題への関心を高め、環 境と調和しながら生きる意識や態 度を育成する。 ② 環境教育年間指導計画に基づき、 全教育活動を通して計画的に実施 する。 ③ 授業や集会などで、SDG'sの書籍 や掲示物等を通し「持続可能な社 会」を紹介し、学ぶ機会を設ける。	【達成状況】 教職員の肯定的回答：92.9% ○総合的な学習の時間における環境教 育や「みやエコスクール」等を通して、 環境問題への関心を高め、環境と調和し ながら生きる意識や態度を育成するこ とができた。 【次年度の方針】 ○引き続き、授業を通して環境問題に対 する関心を高めていく。
3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A 10 教職員は、特別な支援 を必要とする児童の実態 に応じて、適切な支援を している。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定 的回答 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 特別支援教育コーディネーターや児 童指導主任を中心に、全校で特別な支援 が必要な児童に関する共通理解を図り、 一人一人のニーズを踏まえた支援 を組織的に行う。 ② 特別支援学級の児童はもとより、 通常の学級においても、必要に応じ て個別の支援計画を作成し、それに基づ く合理的配慮を伴う指導に努める。	【達成状況】 教職員の肯定的回答：100% ○全職員で特別な支援を必要とする児 童の情報を共有し、適宜校内支援委員会 を開催した。 ○児童や保護者、各担任のニーズに合っ た支援を検討し、SCや関係諸機関と連 携を図り支援を実施してきた。 【次年度の方針】 ○通常学級における特別支援教育を推 進し、児童のニーズに応じた支援や適切 な合理的配慮を実施していく。
3- (2) いじめ・不 登校対策の 充実	A 11 教職員は、いじめが許 されない行為であることを 指導している。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定 的回答 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 道徳の授業や学級活動において、 生命尊重やいじめを題材にした授 業を、全クラスが学期に1回実施す る。また、学校生活全体を通して、 自分の大切さとともに他の人の大 切さを理解させる。 ② いじめゼロ強調月間（年2回）を 設定し、いじめゼロ集会の開催や児 童から募集した標語等の掲示を行 い、行事・係活動等を通して、思い やりの心をもって助け合うことの 大切さを理解させる。 ③ 異学年交流活動等の中で、複数の 教職員が児童の様子を観察するこ とを通して、いじめの早期発見と迅 速な対応に努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答：98.8% 保護者の肯定的回答：83.8% ○各担任が中心となり、いじめの早期発 見と迅速な対応に努めてきた。また、い じめゼロ集会や標語の掲示などを通し て、思いやりの心をもつことの大切さに ついて、機会をとらえて伝えてきた。 【次年度の方針】 ○引き続き、学校生活全体を通して、い じめが絶対に許されない行為であるこ とを指導していく。

	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 担任は、いがいのあるクラスづくりに努め、児童が自己有用感をもてるようにする。 ② 教育相談、アンケート、Q-U調査等の結果を活用し、不適応傾向のある児童の早期発見と不登校の兆候や傾向の児童に係る校内全体での情報共有を図る。	【達成状況】 保護者の肯定的回答：88.6% ○達成目標に及ばなかったが、各担任は児童にとっていがいのあるクラスづくりに努めたり、見守りが必要な児童に関して校内全体での情報共有を図ったりすることができている。 【次年度の方針】 ○引き続き、不適応傾向のある児童や不登校の兆候がある児童に関して学校全体で情報共有を図り、保護者との連絡を密にすることで早期解決に努めていく。 ○Q-U調査の結果をクラス経営に生かしていく。
3-(3) 外国人児童生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 創意ある活動の時間を教育課程に位置付け、教育活動にゆとりと広がりを持たせるようにする。 ② 学校行事や縦割り班活動等は、ねらいや役割を明確にした計画や指導の工夫に努め、児童が主体的かつ生き生きと活動できるようにする。	【達成状況】 保護者の肯定的回答：88.1% ○児童一人一人が自己肯定感をもてるような指導を行ってきた。学級の問題について、自分たち自身で解決方法について考え、話合うなど、よりよいクラスづくりが行えるように支援し、一人一人が輝ける学級経営を心掛けた。 ○適切な場面で教師が支援や指導を行い、よりよい人間関係の構築に努めた。 【次年度の方針】 ○学校行事やふれあい班活動など、ねらいや役割を明確にし、計画や指導の工夫に努め、児童が主体的かつ生き生きと活動できるようにする。 ○各種便りを活用し、児童の様子がより保護者に伝わるようにする。
3-(4) 多様な教育的 ニーズへの 対応の強化			
4-(1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 基礎・基本を重視し、自ら学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等の能力を育成するために、学習内容に応じた学習形態の工夫や教材・教具の工夫を図り、個に応じた学習指導を充実させていく。 ② 学習内容のまとめ方の工夫や児童による学習の振り返りにより、学習内容の確認と児童の学習状況をつかむことで適切な指導・支援に生かしていく。	【達成状況】 児童の肯定的回答：95.1% ○宇都宮モデルを意識した授業により、基礎・基本の定着を中心に指導した。また、タブレットを効果的に利用することで、学力の向上を図ってきた。 ○教材研究を行い、児童が興味関心をもてるような課題設定のしかたや教材教具の工夫を心がけた。 【次年度の方針】 ○教師間で、よりよい授業について、情報を共有したり、TTでの授業のあり方について、意見を交わしたりするなど、校内研修のさらなる充実を図り、資質の向上に努める。

4－(2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 教員と専門性を有するスタッフとの間で、それぞれの役割を明確にし、連携・分担を適切に行い、学校の教育力が向上するようなコミュニケーションに努める。	【達成状況】 教職員の肯定的回答：100% ○それぞれが役割を理解し、責任をもって業務に取り組んだことで、教育環境が整い、児童指導や学習指導に注力することができた。このことにより校内に落ち着き、学校全体の教育力が向上した。 ○児童指導について、常に共通理解を図ることを心がけ、様々な立場の職員から適切な声掛けをすることができ、問題行動を抑制したり良い面を伸ばす指導につながったりすることができた。 【次年度の方針】 ○引き続き、打合せや会議を活用し、情報を共有しながら組織として業務に取り組めるよう、協力体制の充実を図る。
4－(3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識するとともに、校務分掌の見直しや人員の配置を工夫し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。 ② 専門性を生かした教育活動を充実させ、「チームとしての学校」を推進し、学校内外の多様な人材が能力を発揮し、それぞれの専門性を活かした活動を展開する。 ③ 学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進める。	【達成状況】 教職員の肯定的回答：100% ○研修の集約や勤務時間を意識した会議の持ち方を工夫するとともに、各教員が専門性を活かした活動の展開を実践することができた。 ○当番や登校指導等の勤務時間の割り振りを意識し、計画的に業務を進める働き方を心がけた。 【次年度の方針】 ○一人一人の意識改革を推進するとともに、諸教育活動や校務分掌の見直し・複数配置等を行うことで、今以上に児童への指導の時間を確保することに努める。
5－(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 学習習慣確立のために晃陽地域学校園として設定した「あいさつ・返事・姿勢」について、小中9年間継続指導を行う。 ② 6年生の中学校訪問の機会をとらえて小中交流活動を行う。 ③ 学校だよりや学校園だよりを活用し、取組の内容を、積極的に発信するとともに、地域や家庭においても協力してもらえるように啓発する。	【達成状況】 保護者の肯定的回答：83.3% ○昨年度よりも保護者の肯定的回答の値が上昇している。これは、各種たよりを通して学校園での取組を発信してきた成果ともいえる。 ○教育活動の制限が解除され、中学校と連携し、中1ギャップの解消に取り組んだ。中学校と連携したあいさつ運動や中学校訪問も実施することができた。 【次年度の方針】 ○学校園での取組を学校だよりやHP等で積極的に発信し、学校で行っている取組の周知に努めるとともに、あいさつ運動などでは、機会をとらえて地域や家庭に協力を呼び掛けるなどする。
5－(2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、	① 地域協議会各部会活動と連携し、学校運営の充実を図る。	【達成状況】 保護者の肯定的回答：88.4%

5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	② 学校ボランティアの活用やふれあい活動の推進など、地域と連携した教育を積極的に実践する。 ③ 出前授業や民間企業と連携した活動を年計に位置付ける。 ④ 授業参観、フリー参観及び学校行事を活用して学校の取組を披露することで、学校・家庭・地域が一体となって児童を育てる雰囲気を作成する。	B ○本校の特色である「ふれあい活動」もコロナが5類となり、以前の形態に戻り、地域の方との学びの場をもつことができた。月1回のペースでの読み聞かせも実施できた。 ○太鼓の演奏やオペラ鑑賞などの文化教室や租税教室や掃除教室等の出前授業、高齢者福祉施設との交流についても積極的に実施した。 ○以上の取組を、学校だよりや学年だよりを通して保護者へ周知した。 【次年度の方針】 ○指標は達成したが、保護者の肯定回答は昨年度より若干低下している。各種便りを通して活動を紹介したり、HPを活用して情報発信したりしていきたい
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進 6- (2) 学校のデジタル化推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 毎月、各教室、特別教室、廊下、体育館等のチェック項目に基づく安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③ 熱中症予防対策、感染症予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答：88.4% ○安全点検に基づき、学校業務担当者や教育委員会と連携し、危険箇所の修繕を迅速に進めるとともに、各種マニュアルの整備や訓練を実施し、緊急の事態に備えることができた。 ○感染症や熱中症予防について、児童に対しては朝の会や全校朝会・校内放送を通して対策方法を伝え、保護者にはメール、各種たより等で周知し協力を依頼した。 【次年度の方針】 ○今後も不測の事態に対応できるように体制を整え、取組に関して積極的に保護者への周知を行う。
	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 授業において、ICT機器を適切に活用している。 ② ICT支援員と連携し、機器の整備や児童への指導を行っている。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答：92.9% ○授業において、紙（ノート）と、ICT機器のメリット・デメリットを教職員自身が理解し、授業で活用する事ができた。 【次年度の方針】 ○ICT支援員と連携し、機器の整備や児童への指導を行うだけではなく、教員同士でICT教育の活用の仕方を話し合う時間を確保する。

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B 1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 児童を主体とした年4回のあいさつ運動を実施する。地域学校園においても、年2回、時期を合わせてあいさつ運動を展開する。振り返りカードの活用や表彰により実践意欲を高める。 ② あいさつの意味や大切さについて考えさせる機会を設定し、進んであいさつをしようとする態度を育てる。	【達成状況】 児童の肯定的回答：95.1% 教職員の肯定的回答：92.9% 保護者の肯定的回答：91.1% ○すべての項目において目標値を上回った。これは、あいさつ運動を年に4回位置付け、自主的にあいさつ運動に取り組む日を設定したり、あいさつについて継続的に指導を行ったりした結果であると考えられる。 【次年度の方針】 ○校内での活動や学校園での取組など、学校・家庭・地域が一体となって活動を継続していく。
	B 2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 全職員の共通理解に基づき、基本的な生活習慣の形成と社会規範及び責任を果たそうとする態度の育成に努め、「篠井小よい子の約束」を確認する。 ② 生活目標の達成を目指し、振り返りによる指導も徹底する。 ③ 授業、学校行事など毎日の生活の中で、時と場に応じた態度や行動の指導を行う。	【達成状況】 児童の肯定的回答：96.3% 教職員の肯定的回答：100% 保護者の肯定的回答：93.2% ○昨年度の児童の肯定回答93.2%を上回り、保護者、地域住民の肯定回答も90%以上を保っている。これは、教職員がきまりやマナーについて共通理解し、発達段階に応じて、適切に声をかけたり、生活目標の振り返りを積み重ねたりした結果であると考えられる。 【次年度の方針】 ○学校園での共通課題や「篠井小よい子の約束」を確認する機会を設け、生活目標を意識した生活の習慣化を図る。また、日頃から、時と場に応じた態度や行動の指導を教職員全体で組織的に行う。
	B 3 児童は地域のよさを理解して様々な人々とのふれあいを大切にし、地域に愛情や誇りをもっている。 【数値指標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① ふれあい活動やみどり活動、たんぼぼの会による読み聞かせなど、地域の方による活動に進んで参加し、感謝の気持ちがもてるようにする。 ② 生活科や社会科の校外学習、特別活動などを通じて、篠井地区について理解し、風土や歴史、地域の人々に対して、愛情や誇りをもてるようにする。	【達成状況】 児童の肯定的回答：95.1% 教職員の肯定的回答：100% 保護者の肯定的回答：78.6% ○今年度より、地域学校園として評価項目に加えた質問項目である。児童・教職員の肯定的回答の値は高いが、保護者の肯定的回答が低いことが分かる。これは①については実施できているが②について、学習する機会が少ないことと、実際に取り組んでいる内容の周知が不十分であると考えられる。 【次年度の方針】 ○総合的な学習の時間を通して、地域について学ぶ時間が取れるよう、年間指導計画の見直しを行う。また、実施した学習について各種便りやHP等を通して周知していく。

	【数値指標】 B 4 児童は生活をする中で、見通しをもって計画的に物事を進めたり、そのやり方などについて改善を図ったりしている。 【数値目標】 全体アンケートにおける肯定的回答 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 学習や生活の場面で、目標をもち、見通しをもって、計画的に物事を進めている。 ② 学習や生活の場面で、問題が生じたとき、それまでのやり方を見直し、より良い方法について考え、改善しようとしている。	【達成状況】 児童の肯定的回答：93.8% 教職員の肯定的回答：92.9% 保護者の肯定的回答：69.2% ○児童・教職員とも目標の数値を達成しているが、保護者の肯定的回答の数値が低くなっている。児童が目標を立て、見通しをもって計画的に物事を進め、改善を図っていることについて各家庭で実感できていないことが分かる。 【次年度の方針】 ○①②を継続するとともに、児童が目標をもち、見通しをもって、計画的に物事を進めている様子を学級便りやキャリアパスポートで保護者に伝える。
--	---	--	--

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

全体的に肯定的な回答の割合が多く、ほぼ指標を達成した。教職員の肯定的な回答は24項目中19項目で100%であり、残りの5項目も90%を超えている。また、児童の肯定的な回答の割合は19項目中18項目で90%を超える結果となった。これは様々な立場の教職員が工夫し協力し合って教育活動や児童指導を行い、児童が主体的に学習や活動に取り組んだ結果が表れていると思われる。地域住民の肯定的な回答の割合も全項目で100%となった。地域住民は日頃から学校行事や教育活動に理解があり、たいへん協力的である。地域の方との交流活動や参観、地域協議会や学校だより等で学校の様子を理解してもらったことが高い評価につながったと思われる。一方で保護者の肯定的回答はA7「児童は宇都宮の良さを知っている」A17「学校は小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている」B3「児童は地域のよさを理解して様々な人々とのふれあいを大切にし、地域に愛情や誇りをもっている」で指標を下回るなど肯定的回答の割合は高いとはいえない。それぞれ次年度の方針にも述べたが、実際の活動をより充実させることと、学校の取組について積極的に情報を発信し、学校教育活動への理解をさらに深めていく必要がある。

7 学校関係者評価

- ・児童は元気に挨拶をしている。子供たちから元気もらっている。
- ・150周年事業が行われたが、地域の方からとてもよかったという話を多く聞いている。
- ・感謝の会での子供たちの発表が素晴らしかった。
- ・地域のイベントを通して子供たちが元気に楽しく参加している姿を見るのはうれしい。
- ・子供たちがタブレットを容易に操作する様子を見て時代の移り変わりを感じる。
- ・子供たちの発表では、よくできている児童ともう少しはっきり発表した方がいいと思う児童がいた。人前で発表する力は大切なので、その力を伸ばしてほしい。
- ・教育とは無関係かもしれませんが、防犯対策をもっと強化してほしい。
- ・何事にも誠意を持って対応して下さっていると思う。
- ・学校行事やオープンスクール等の時、インフルエンザやコロナ等の感染状況をきちんと把握し、国の方針がどうであれ、篠井小の児童の健康、安全を一番に考え開催するかどうかを考えてほしい
- ・先生方の組織の力で、学校全体をみんなで見守ってほしい。保護者も含めて、皆で支え合っていけるといい。
- ・生徒数が少ない分、きちんと教師は児童や保護者に対しての対応など改善していけるとよいと思う。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

学校関係者は、学校に対し、児童の健全な成長を一番に考えた対応を期待していることが分かる。篠井小学校という小規模校ならではの強みを生かし、細やかな取組を評価している一方で、学校や教師の働きかけで児童がいかなようにも変容するということを期待と不安とでとらえていることがうかがえる。

今後も学校と家庭、地域の三者の繋がりを強固に保ち、連携・協力を促進していくとともに、必要な情報を積極的に発信し、より学校の取組への理解を深めていく。児童がいきいきと過ごすことで地域の活力を高めることができるよう、地域と共にある学校を目指して、より教育活動を充実させていきたい。

- ・ 小中間連携の機会や情報のやり取りを充実させ、一人一人のよさを生かす系統的な教育課程を編成していく。
- ・ 特色ある教育活動をより一層推進し、自然に親しみ、相手を敬い、感謝する心や思いやりの心を育み、望ましい人間関係を醸成する。
- ・ 篠井地区に愛着や誇りがもてるように、地域を知る学習を新たに設け実践していく。
- ・ 互いに理解を深め良好なコミュニケーションをとることができるよう、思考力や判断力・表現力が向上するような学習や特別活動等を設定し、教育活動の充実を図る。